

## 第一段落

鹿おどし

愛嬌がある。

人生のけだるさ。

くぐもつた優しい音。

単純な、緩やかなリズムが、無限にいつまでも繰り返される。

緊張が高まり、それが一気にほどけ、何事も起こらない徒労がまた一から始まる。

流れるもの。

水の流れ

時の流れ

それをせき止め、刻む 流れてやまないものの存在を強調する

流れるもの。 逆説

## 第二段落

鹿おどし 〓 素朴な竹の響き。

噴水 〓 噴き上げる華やかさ。

流れる水 〓 田園、自然、水平、上から下

噴き上げる水 〓 都会、人工、垂直、下から上

音をたてて空間に静止している

揺れ動くバロック彫刻。

### 第三段落

時間的な水 = 時の流れを刻む水。

空間的な水 = 空間に静止したように見える水。

西洋 = 噴水が発達 空気が乾いて、人々が噴き上げる水を求めた。

ローマ依頼の水道の技術が有利であった。

日本 = 噴水を作らなかった 伝統

× 外面的な理由

空気が乾いていない。

水道の技術がなかった。

内面的な理由

水は自然に流れるのが美しい。

造型

### 第四段落

西洋人 = 目に見える

水には形がない → ×

日本人 = 目に見えない

独特の好み

行雲流水 = 物に応じて行動する。

× 思想

感性

× 受動的な態度 = 外界のものに影響される

積極的な心 = 形のないものを恐れない。

水を見る必要さえない

断続する音を聞く

その間に流れる水を心で味わう

極致

想像する

鹿おどし